



秩父ミュージズパークで

公園インストラクター事業

# 自然と遊ぼう。

当公園では、動植物などの専門知識を持つボランティアである「公園インストラクター」の方々の協力を得て、各種イベントを実施しています。平成30年度はこのリーフレットのイベントを開催します。どうぞ積極的にご参加下さい。各種イベントの申し込み・お問い合わせにはミュージズパーク管理事務所までお願いします。電話 0494-25-1315 FAX 0494-21-1039

## 冬を越すチョウ

チョウたちの仲間には、成虫で冬を越すチョウがいます。ここミュージズパークでもキタキチョウ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメ、ウラギンシジミ、テングチョウ、アカタテハ、カタテハ、シートテハ、ヒオドシチョウ、ルリタテハの10種類のチョウが成虫で冬を越しています。その中でも、写真のキタキチョウ、テ



ングチョウは、陽当たりの良い東または、南向き斜面で、テングチョウは枯れ葉の近くで、キタキチョウは冬でも緑の残る草や生垣などの低木の葉裏で冬を越します。時には、写真のように雪の中に埋まってしまう



テングチョウ

## 海を渡るチョウ アサギマダラ

アサギマダラは夏を涼しい本州の高原などで過ごし、秋には新しい世代が暖かな南をめざして移動します。鱗粉の少ない浅葱色(空色)の羽で風に乗る、「フワーリ、フワーリ」と飛び美しい大型の蝶です。一番長い距離を飛んだ記録は、蔵王高原から沖縄と那国島までの2,246kmだそうです。



ミュージズパークには、だいたい旅の途中の10月中旬頃に、白いフジバカマやサケバヒヨドリの花を求めて舞い降り去っていきます。今年も10月に観察会を行います。ぜひ、ミュージズパークの森の中にある秘密の花園においで下さい。葉草フジバカマなどの花を見つけながら南下して子孫を残し、また翌年には北の故郷にもどってくるアサギマダラの長い旅も、驚異的移動能力も、謎やロマンに満ちています。

(飯塚明)

## 小さい生き物たちの世界をみてみよう

パルテノンから東側斜面を下っていくと、棚田やトンボ池があります。この周辺ではトウキョウサンショウウオやヤマアカガエルの卵やオタマジャクシが見られます。また越冬した昆虫やカタテハ、テングチョウ、コツバメなどの蝶類、トンボの幼虫(ヤゴ)を観察する事が出来ます。朽木



サンショウウオの卵

の下を探し、子供達に大人気カブトムシなどの幼虫を見つけてみましょう。歩きやすいハイキングシューズ等でご参加下さい。

(江原繁)



トンボの幼虫(ヤゴ)

## 昆虫たちの世界をのぞいてみよう

みなさんはカブトムシやクワガタをとったことがありますか。夏の夜、ミュージズパークの大きなクヌギには毎晩多くの親子がカブトムシを取りに来ています。取るのは楽しいことですが、私たちインストラクターは昆虫の生態も知ってほしいと思っています。そこで昼間には樹液に集まる昆虫や池の周りを飛んでいるトンボ、草地のバツタなどを観察する「子ども昆虫探検隊」を、夜には樹液だけではなく、あかりに集まる昆虫を観察する「夜の昆虫探検隊」を実施しています。



昼間のクヌギには樹液を吸いに大きなオオムラサキやちょっとこわいスズメバチ、カナブンなどが集まっています。カブトムシがいなくなるときのにはなにが一番強いのかということも観察できます。夜は昼間以上にいろいろな昆虫があかりに集まってきます。たくさんのが、カメムシ、セミも集まってきます。ぜひミュージズパークの夏を親子で楽しんで欲しいと思います。

(町田 和彦)

## 多彩な山野草の世界

ミュージズパーク及びその周辺地域では、野生植物だけでも500種類以上もの植物が分布しており、植物種の多様性から見ても重要なスポットである。中でも、埼玉県、レッドデータブック植物編に記録されている植物では、アカハナワラビ、コヒロハハナヤスリ、サクライカガマ、タニヘゴ、オオカナワラビ、アズマススゲ、カタクリ、ヒメニラ、ステゴビル、シロバナエンレイソウ、イカリソウ、アズマイチゲ、



ウメガサソウ(初夏)



ツクシハギ(秋)

ネコノメソウ、マキノスミレ、アキノギンリョウソウ、キクタンギク、ウメガサソウ、アケボノスミレ、オオヤマツツジ、オオヒキヨモギ、アサマヒゴタイなどが見られる。

### ワンポイントアドバイス

シダ類植物の場合は孢子のう群の形や付く位置、鱗粉の色や形・花弁の先が筒状になっているかなど、また、茎、花柄などの毛の有無や伏毛か又は開出毛かなども区別点として重要。

(岩田 豊太郎)

## ホタル観賞

秩父ミュージズパークの駒沢ホタルの里に飛んでいるホタルは、雄のホタルが雌のホタルを探し求め隊列を組んで飛んだり、急降下したり、光を放つ時間を合わせながら飛びますので鑑賞して下さい。



ホタルは世界に約2千種位いると言われますが、日本にいるのはクロマドボタルやオバボタルを含めて43種類います。ゲンジボタルやヘイケボタルとクメジマボタルのように幼虫時代を水中で過ごすのは、世界でも珍しく一桁台の種とされています。

ホタルは昆虫ですので、卵・幼虫・さなぎ・成虫と姿を変えます。この中でも幼虫時代が長く、秩父地域では2年から5年位かけて成虫になります。また、同じ卵から生まれた幼虫でも成虫になるのが、このように差が生じて成虫になるのは、天候や災害・環境の変化などで卵が産めない状況になっても幼虫で生き残れます。

蛹(さなぎ)

このような生態なので稲作が始まった太古の昔よりホタルの種が保たれたと思います。秩父地域には以前、樹木が無く背丈の少し高い草が生えた所にゲンジボタルがいましたが、このホタルは大きく約20mm位ありましたが、開発により飛ばなくなりました。ここ駒沢地区のゲンジボタルは、昔からこの地域に住んでいるホタルをさらに住みやすい環境を整備して皆さんに観賞頂いていますので、環境を壊さずにホタルを捕らないで鑑賞して下さい。(坂本文雄)

幼虫(ようちゅう)

## 星空を眺めて宇宙を感じてみませんか

### 本物を見ましょう

世界最大級の望遠鏡や、人工衛星に載せた大型望遠鏡から正確で美しい映像が送られてくる時代になりました。コンピュータグラフィックスで書かれた惑星の図なども有ります。

今度は秩父ミュージズパークで、本物の木星や土星、月などを見てみましょう。思ったより木星は小さく、月のクレーターも影の長さが毎回違って来るのがわかってきます。何か新しいことを発見できるかもしれません。



直径30cm~15cmの大望遠鏡を用意します。「星空博士」の資格を持ったおじさんたちが、星座や神話を案内します。

### 天体観測会 毎月実施

毎月第4土曜日、多目的ハウスにて、夏期は午後7時から冬期は午後6時から星座の解説をはじめます。惑星や銀河、星雲、流星など、折々の現象を解説します。



4月・8月・11月はインストラクター事業にあわせて、日程場所が変更になります。インストラクター事業の予定を参照してください。(内藤 浩)

## バードウォッチングはじめませんか

### 秩父ミュージズパークで観られる野鳥

秩父では、168種類確認されている内、ミュージズパークでは75種類確認されています。一年中見られる留鳥、春フィリピンなど南方から繁殖に来る夏鳥。シベリアなどから越冬に来る冬鳥などに別れています。冬のバードウォッチングは留鳥と冬鳥を見る事が出来、野鳥は早朝の方がよく見られます。冬は木の葉も落ちて見通しがきき、林の中にいる鳥もよく見ることが出来ます。たとえば、木の天辺に止まる鳥、カワラヒワ、中程



ミヤマホオジロ(冬鳥)

には、シジュウカラ・ヤマガラ・エナガ・メジロ・コゲラ(冬は小群でいる)数は、ウグイス・ホオジロ(留鳥)・ベニセキソ・アオジ・カヤグリ(冬鳥)地表では、ハクセキレイ・セグロセキレイ(留鳥)・ツグミ・シロハラ(冬鳥)などが見ることが出来ます。いつ・どこで・何を見たかを付けておく、フィールドノートがあると良いです。ハンディ図鑑があれば早く確認できます。



オオルリ(夏鳥)

### 双眼鏡の選び方

双眼鏡があれば世界が広がります。倍率が高いとアップで見れると思いますが視野が狭くブレが生じます。レンズ口径は代表的な次のサイズです。20口径 折りたたむと、手のひらに収まるコンパクト旅行等のシーンで大活躍。30口径 バードウォッチング用の双眼鏡としてももっとも人気があるのがこのサイズ大きさ・重さ・見え味のバランスが良く、初めて双眼鏡を購入する方におすすめ。40口径 他の口径にない明るさや視界の広さを持つがかさばり、重く、使いづらいつ感じられるかもしれません。おすすめは 8x30、8x32 [倍率x対物レンズの口径の直径(mm)] (丸山 政)